

AHDB分析 1-6月、4大豚肉輸出国のうち、EUだけが増加

AHDB（英国農業園芸開発公社）によると、2014年は、世界の豚肉市場でさまざまな混乱が起こった年だった。ロシアは世界最大の輸出国を禁輸とし、世界中で一連の疾病が発生した。

そして、2015年上半期、世界の豚肉貿易は通常の状態に回復してきたのだろうか？

世界でもっとも重要な豚肉輸出4か国は、EU、米、カナダとブラジル。

1-6月、各国はそれぞれに異なった影響を受けているようだ。

EUだけは輸出量が76万5千600トンと7%も増加した。EUの輸出業者は2014年1月のロシア禁輸から回復してきており、ユーロ安で、EU産豚肉は価格競争力が高まった。

中国ではここ18か月でと畜が減少し、国内生産が減り、輸入が増加した。輸入は前年比50%増で、大半の輸入増はEU産。一方、米産はほぼ50%減、カナダ産は43%減。最近になって輸入が認可されたため、ブラジルからの輸入量は少ないが、今後は増加するはずだ。

ロシアの禁輸制裁で、世界の4大豚肉輸出国のうち、3か国は1-6月の輸出が急減した。

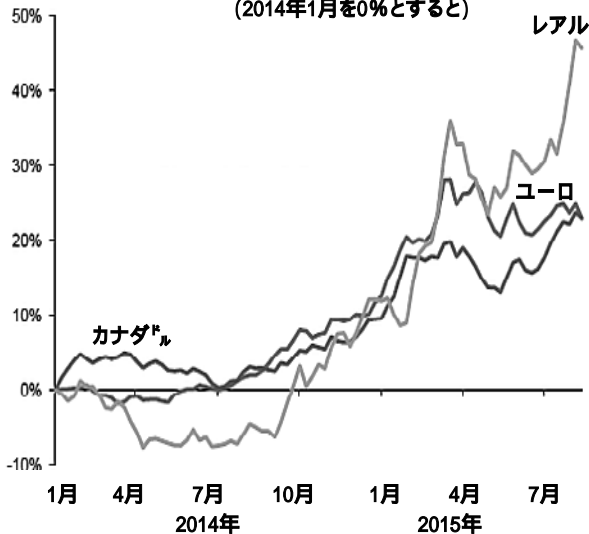
とも影響が大きかったのはカナダで、EUは禁輸からの影響を脱出している。

ブラジル産の対口輸出は増加しているが、禁輸を実施した他の国からの供給分は不足している。

メキシコではPEDからの損害が続いており、1-6月の輸入が増加した。このため、米からの輸入が増加している。カナダからの輸入も拡大した。

韓国ではPEDの発生と長引く口蹄疫で、国内生産が抑えられており、EU、米、カナダからの輸入が増加。もっとも輸入が増加したのは米。

米ドルに対する為替レートの推移
(2014年1月を0%とすると)

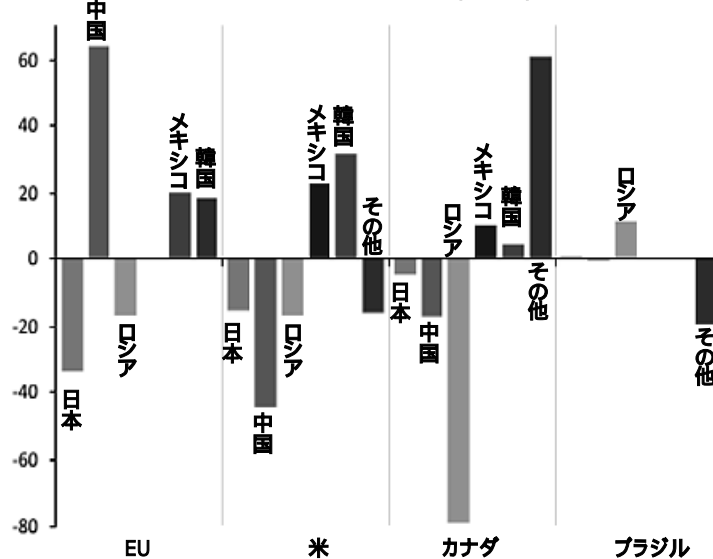


米では昨年の豚流行性下痢（PED）から回復し、生産が増加してきたが、それでも輸出が減少した。1-6月の輸出量は76万4千200トンで、5%減。ドル高が価格競争力を弱めている。

カナダの輸出量も41万5千100トンで、6%の減少。2014年8月に実施されたロシアの禁輸により大打撃を受けた。2014年1-6月の対口輸出シェアは18%だったが、禁輸以降はゼロ。EUとの競合激化で、余剰分の豚肉の代替輸出先にカナダは苦しんでいる。

ブラジルの輸出は4%減の19万3千600トン。輸出が減少したのは、小規模市場への輸出先が縮小したためで、主な輸出先（特にロシア）は前年比増となっている。世界最大の輸入国である日本への輸出は、PEDからの回復で生産が増加、在庫も多いため、減少している。このため、EU、米、カナダからの輸入も減っている。

1-6月、豚肉輸出前年比(1千トン)



世界の豚肉貿易は、昨年からの疾病や禁輸、為替レートからの影響を受け続けている。

EU、カナダ、ブラジルなどは米との価格競争に立ち向かうことができ、どこから輸入をするのかの変更も可能となった。

しかし、米の価格がさらに下落し、他の国の価格に近づいており、年末に向け、世界の輸出国構造に変革が起こるかもしれない。

中国は成長市場となってきたことと、他の国では疾病関連の供給不足から回復しているため、中国でのEUの強力なポジションを他の供給国が切り崩せるかが、今後の焦点となりそうだ。